

【パネリスト紹介】岩手県飲食業生活衛生同業組合副理事長、大船渡支部長千葉武継（ちば たけつぐ）氏
大船渡市出身。平成元年4月～平成6年8月まで割烹料理店にて勤務。平成6年9月から平成11年1月まで「そば処千秋庵」勤務。平成11年2月から現在地にて「生そば御料理千秋庵」開業。平成7年5月から大船渡支部理事就任。平成24年5月から大船渡支部副支部長就任。平成29年5月から県飲食業組合理事、大船渡支部長就任。令和3年5月から県飲食業組合副理事長就任。令和3年より地域活性化連携事業（セイエイ百貨店・デモンストレーション事業）継続実施。令和4年岩手県飲食業生活衛生同業組合理事長表彰。令和5年岩手県生活衛生同業組合中央会長表彰。令和6年岩手県知事表彰（生活衛生功労者）。令和7年2月26日発生の大船渡山林火災では、翌日のテレビ取材に対応。飲食業組合大船渡支部長として避難所への炊き出しを陣頭指揮、約1万食を避難所へ支援した。元消防団としても活動。



2025年2月26日発生「大船渡山林火災」(約3,370ha消失)

2025年2月27日(木)、NHKの取材に対応しました。

大船渡山林火災 飲食店の組合が避難所で炊き出し

02月27日 20時22分



大船渡市三陸町の避難所では、27日夕方、市内の飲食店の経営者たちが避難した人たちに温かい食事を提供しようと、けんちん汁の炊き出しを行いました。

この炊き出しは、大船渡市内の60の飲食店の経営者でつくる「岩手県飲食業生活衛生同業組合大船渡支部」が、27日午後5時現在で最も多い252人が避難している「三陸公民館」で行いました。



岩手県飲食業生活衛生同業組合 千葉武継 副理事長

「私は人が悪いわけではないので、無難のうちに『早く帰って来なさい』と、みんな避難所に来ているひとたちみんな応援している。『自分たちがいい影響を与える機会なんじゃないか』というふうに思っています」

「私たちが海そばで暮らしている人たちは、震災のときにみんなです。生きてるんじゃないかって、お母さんお父さんお爺さんお婆さんって、あの時にみんなです。そこにはすごく大事」

3

飲食業組合 横田理事長が炊き出し初回、大船渡へ駆け付け 激励！



2026年2月3日、魚河岸にて撮影

2011年3月11日(金)

理事長は、東日本大震災で店舗・自宅を全壊。震災時は家族と避難所での生活を送った。避難所では、翌日から避難者の食事を全面的に支援

2025年2月27日(木)

理事長が現場に来ると、県内の支部員も駆け付けてくれた。

高田副理事長談(盛岡支部)：

理事長が、いち早く現場に来たことで組合員が団結した。

4

『旅館ホテル組合』との連携 2025年2月27日(火)

旅館ホテルでは、キャンセルが相次いだ。

旅館ホテル組合大船渡支部から、避難所へ布団の提供がありました。

飲食業組合と旅館ホテル組合が連携して避難所が設置された三陸公民館に、いち早く布団を届けました。



9